

都道府県・ 指定都市番号	05	都道府県・ 指定都市名	秋田県	研究課題番号・校種名	2 (4) 中学校
				領域名	E S D
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
学校名 (児童・生徒数)	<small>ふりがな</small> 大仙市立大曲南中学校 (76名) <small>だいせんしりつ おおまがり みなみ ちゅうがっこう</small>				
所在地 (電話番号)	〒014-1412 秋田県大仙市藤木字上野中70番地2号 (0187-65-2001)				
研究内容等掲載ウェブサイトURL	http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~om-minamityu/				
研究のキーワード	Think Globally, Act Locally 共通実践事項と授業改善 ホールスクール及びホールエリア 交流と連携を生かした体験学習 大曲南地区SDGs				
研究結果のポイント	○全教科等の授業における共通実践事項の徹底により，生徒が課題意識を持って学び合う協働的な実践力を育成することができた。 ○ゴールを設定し，それを見通した総合的な学習の時間の展開により，学んだことを発信する力や生活に活用する力の向上が見られた。 ○学区内の小学校等との交流と連携を生かした体験学習により，新鮮な学びと向上心を育成できた。 ○ホールスクールの取組から，更に地域を巻き込んだホールエリア的な取組を展開することで「大曲南地区SDGs」の設定に至るなど，地域を巻き込み，学びに広がりや深まりが生まれた。 ○「E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度 (例)」(国立教育政策研究所)を踏まえた，「身に付けたい力」に関わる生徒の変容を見取ることができた。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

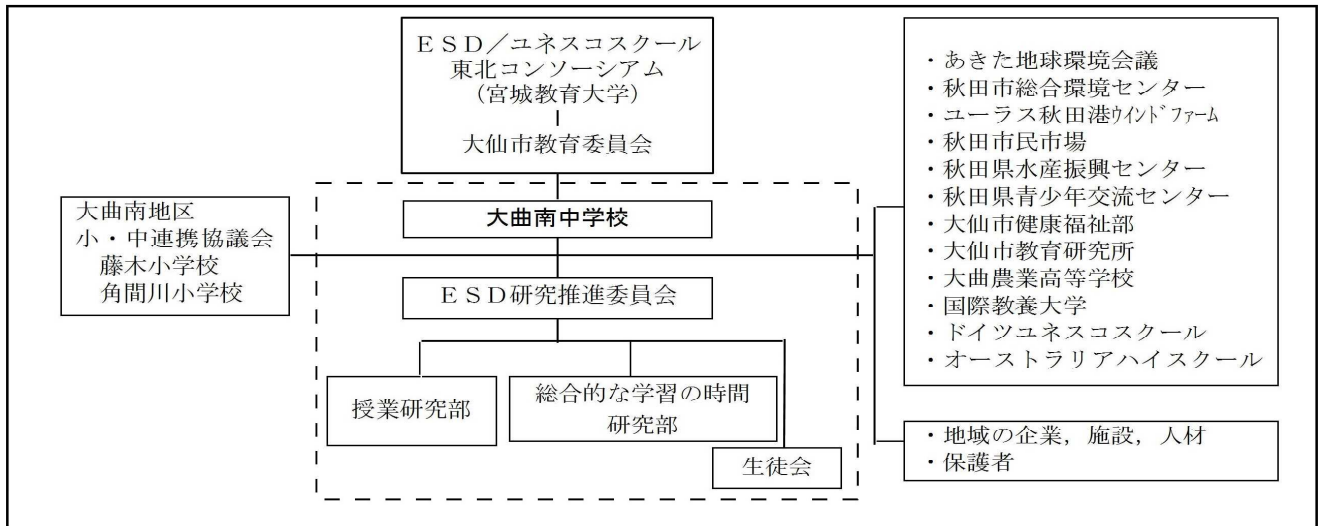
持続可能な社会に向けた人づくりを目指した
 問題解決的な学習を中心とする全教育活動における指導方法等の工夫改善

(2) 研究主題設定の理由

本校は，平成22年度にユネスコスクールに認定され，「考え，行動する環境教育」に取り組んできた。その中で，近隣の小学校，高等学校，地域社会，関係機関，更には地域外の中学校との「交流と連携」を充実させながら，E S Dの視点を取り入れた教育活動を展開している。平成27年度から，大学や海外のユネスコスクール等との交流にも取り組み，更なる深化・充実を図っているところである。また，各学年における総合的な学習の時間の柱として，「食育」「エネルギー教育」「国際教育」を位置付け，体験を通じた思考力・判断力・表現力等の育成を重点とした「社会的実践力」を育むことで，「生きる力」の育成に資することを目指している。

本校では，E S Dの目的を「持続可能な社会に向けた人づくり」と捉え，具体的な取組としてE S Dを進めるには，教科間，教員間の連携がそのための大前提であると捉えている。そこで，全教育活動を通してE S Dの視点に立った問題解決的な学習を展開し，「人」「教材」「能力・態度」のつながりを意識した指導の工夫を図り，持続可能な社会の形成者としてふさわしい「資質・能力」を持った生徒を育成したいと考え，本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成 28 年 度	<p>4月 校内研究体制づくり (ESD研究推進委員会：授業研究部・総合的な学習の時間研究部)</p> <p>5月 「総合的な学習の時間」全校オリエンテーション 大曲南地区ESD小・中連絡協議会① (②8月, ③10月, ④2月実施)</p> <p>6月 ESD校内研修 (講師：東京都連光寺小学校長 棚橋 乾 先生) (他に4回実施)</p> <p>7月 校内授業研究会 (ESDの視点を踏まえた研究協議) (8月, 9月, 12月, 1月実施)</p> <p>11月 中間公開授業研究会及び大曲南地区オープンスクール (授業公開：国語・英語, 研究協議会, 小・中交流授業：環境学習, 講演：国研調査官)</p> <p>1月 秋田県学習状況調査の分析結果から成果と課題の把握</p> <p>※ESDの視点に沿った総合的な学習の時間の取組を中心に, 年間を通し次の活動を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育 (環境出前授業, 有機肥料による野菜栽培, エコクッキング, 市民市場見学等) ・エネルギー教育 (ゴーヤカーテン製作, エネルギー関連施設訪問, 修学旅行での関連施設見学) ・国際教育 (国際教養大学相互訪問, 海外ハイスクールとのICTを利用した交流等)
平成 29 年 度	<p>4月 校内研究体制づくり (ESD研究推進委員会：授業研究部・総合的な学習の時間研究部) 「総合的な学習の時間」全校オリエンテーション実施 大曲南地区ESD小・中連絡協議会① (②8月3日, ③10月12日, ④2月予定)</p> <p>5月 ESD校内研修 (講師：目白大学人間学部 石田 好広 先生)</p> <p>6月 校内授業研究会 (ESDの視点を踏まえた研究協議) (9月5日, 9月20日, 10月17日, 10月23日実施)</p> <p>7月 生徒によるESDで身に付けたい力の定着アンケート① (②10月26日, ③2月実施)</p> <p>10月 大曲西中との交流活動開始 (12月22日実施)</p> <p>11月 大曲南地区オープンスクール, 小・中交流授業①実施 教育課程指定校事業公開授業研究会及び大曲南地区オープンスクール (授業公開：数学・社会, 小・中交流授業②, 研究協議会, 講演：国研調査官)</p> <p>1月 秋田県学習状況調査の分析結果から成果と課題の把握</p> <p>※ESDの視点に沿った総合的な学習の時間の取組を中心に, 年間を通し前年同様の活動を継続</p>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①全教科等の授業における共通実践事項の徹底による、協働的な実践力の育成
- ②ゴールを設定し、それを見通した総合的な学習の時間の学習を生かして、学んだことを発信する力や生活に活用する力の育成
- ③“Think Globally, Act Locally”の視点での、地域内の異校種や身近な地域社会、関係機関とともに、地域を越えた中学校との交流と連携の充実

(2) 具体的な研究活動

- ①全教科等の授業における共通実践事項の徹底による、協働的な実践力の育成
 - ・全教科等で問題解決的な学習を推進するために、共通実践事項と実践するための手立てを明確にした取組を重ねた。問題解決的な学習を軸として、話し合いを中心とした協働的な学びを重視し、小グループでの意見交流を生かした学習を全教科等で継続した。グループでの「司会、記録、発表、反応」という役割分担を継続し、学び合いの活性化と焦点化を図った。
 - ・授業はもちろん、学校生活のあらゆる場面で「課題の受信→個での思考・解決→学び合いのための発信→学びの発信」のサイクルを循環できるような、視点を明確にした「聴く」指導を徹底した。また、課題についても、広く概念的なものだけでなく、実生活や時事に即した内容を意図的に取り上げ、学びと実生活の接点を感じられるようにした。
 - ・意見の比較・検討から、考えの再構築に進められるように、今は何をどのように比較・検討する場面か、どの観点で全体討議に取り組むのかといった、思考の過程が分かる板書を工夫した。例えば、小グループでの話し合いを視覚化して提示する小黒板等については、取り上げ方を一律にはしないなど、学びの状況に合わせて取扱い方を工夫することで、比較・検討の質を高め、よりよい意見への再構築を目指した。
 - ・校内研修では、教科の枠にとらわれず、比較・検討から考えの再構築への在り方といった共通の視点を協議しながら、実践を深めた。

※「共通実践事項」とは、①生徒自らの「問い」を引き出す課題設定の工夫、②「受信→思考→発信」のサイクルに基づく「聴く」指導の徹底、③他者とのコミュニケーションを通して課題解決を図る活動の重視、④「比較・検討を中心とした学び合い」の設定、⑤自己の考えを深める「振り返り」の設定の五つである。

- ②ゴールを設定し、それを見通した総合的な学習の時間の学習を生かして、学んだことを発信する力や生活に活用する力の育成
 - ・1年「食育」、2年「エネルギー教育」、3年「国際教育」という継続した学年テーマに沿って、体験を重視した総合的な学習の時間を実施した。その中で、一人一人の課題を明確にすることと、学習を進めた一年先のゴールを意識させることで、生活への活用までを見越した学習に取り組ませた。
 - ・校内掲示に最新のニュースを取り入れ、生徒に意見を書き込ませたり、フリートーク集会の話題に、時事的な視点を導入したりして、学習と実生活の接点に気付かせるとともに、生徒一人一人が現実にも目を向けられるような校内環境を整えた。それらの学習をベースに構成した小・中交流学習では、大曲南地区SDGsの原型作成にも取り組み、実生活から未来を見通す学習を展開させた。
- ③“Think Globally, Act Locally”の視点での、地域内の異校種や身近な地域社会、関係機関とともに、地域を越えた中学校との交流と連携の充実
 - ・小・中合同研究で設定した「ESDカレンダー」と「各発達段階で身に付けさせたいESDの力」を運用し、生徒の自己評価も加味しながら検討・修正を続けている。
 - ・国際教育の一環として、国際教養大学との相互交流、海外の生徒とのスカイプでの交流等、ICTを活用した交流を重ね、英語をツールとしたコミュニケーション活動を行った。

- ・一地区一中学校であるが故に、これまでは異校種等の異年齢との交流が中心であったが、地区外の中学生との交流を開始し、同年代ならではの対話や切磋琢磨する場を体験させた。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 普段の学習で身に付けさせたい三つの力「コミュニケーションを行う力のCo-6 Co-7」「批判的に考える力のCr-10」「多面的・総合的に考える力のM-13」について、前期の生徒アンケートの評価が低かった。共通実践事項をホールスクール体制で積み重ねたことで、後期アンケートでは、Co-6 3.07→3.50, Co-7 3.07→3.27, Cr-10 3.29→3.57, M-13 3.14→3.63と、全てに改善が見られた。これらは、昨年の授業者によるアンケートでは改善が見取られたが、生徒の自己評価では確かな変容が見取られなかった項目である。Cr-10, M-13は本年度の重点目標でもあり、二年越しの課題の改善が生徒自身にも受け止められた。(※アンケート調査は、全て4点満点での調査)

※Co-6 : 声量・速度など、相手に気を配って話す	Co-7 : 誰にでも自分の意見を積極的に述べる
Cr-10 : 自分の考えを吟味し再構築する	M-13 : 課題に対してさらにより方法を考える

- 総合的な学習の時間で更に伸ばしたい、以下に示した三つの力でも、前期の生徒アンケートでは、それぞれ評価の低い項目があった。課題意識を持たせ、ゴールを見通した体験学習に意欲的に取り組ませたことにより、それぞれの項目の平均値が「課題を見付ける力」3.40→3.65, 「発信する力」3.30→3.64, 「生活に活用する力」3.37→3.52と、全てにおいて改善が見られた。特に「発信する力」については、三つのアンケート項目で調査したが、平均の上昇が0.35ポイントと最も大きく、本校の長年の課題であった、表現力の改善にもつながる成果となった。
- 授業公開では参観者から、授業での生徒の聴く力の高さや、思考や発言内容の深まり等に加え、小・中交流授業での大曲南地区SDGsという新しい視点での意見交換の質の高さについても高評価を得ており、本校・本地区が目指してきた生徒等の姿を、他者の目を通して確認することができた。
- 「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)」について、前期と後期の生徒アンケートでは、七つの項目全てが向上(七項目の平均値3.02→3.52)した。
- 普段の学習で身に付けたい力の一つ、コミュニケーションを行う力の中の表現する力、総合的な学習の時間で更に伸ばしたい力の一つ、「生活に活用する力」は、前期よりは伸びているものの、他の事項と比べるとまだ改善の必要があり、指導の在り方を再検討する。
- 「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)」は、その数値自体は全ての項目で向上してきているが、「未来像を予測して計画を立てる力」と「進んで参加する態度」については、どちらも3.5を下回っており、更に生活と結び付けた指導を模索する。

平成29年度国立教育政策研究所教育課程指定校事業研究協議会では、子供が社会とつながる取組・社会参画の推進について、今まで継続して実践してきた体験学習や、地域社会・他の機関とのネットワークを、ESDの視点で捉え直しながら、社会と関わりを持てる子供の育成を更に進めていくように助言をいただいた。今後もESDで目指す子どもの姿の実現に取り組んでいきたい。

4 今後の取組

- ・生徒が意識し始めた生活に生きて役立つ学びについて、更にその力を伸ばせるようホールスクール及びホールエリアでの取組を継続する。
- ・大曲南地区で、小・中連携を通してESDを体系的に進めるために運用している「ESDカレンダー」を、より活用しやすいものにしていくとともに、評価についても更に研究を進める。
- ・継続した環境教育は本校ESDの取組のベースであるが、“Think Globally, Act Locally”の視点で、生活に活用する力の育成と関連付けながら、活動・学習内容について修正を検討していく。